

令和5年度公益財団法人可児市体育連盟事業計画

	事業名	開催予定日	会場
1	体連かに発行（4月号）	4月1日（土）	
2	総合体育大会委員会	4月中旬	錬成館
3	第42回可児市総合体育大会開会式	4月23日（日）	錬成館
4	スポーツ教室（HIIT THE BEAT）	4月～5月	錬成館
5	スポーツ教室（エアビクス&フットセラピー）	4月～5月	錬成館
6	スポーツ教室（ピラティス&ヨガ）	4月～5月	錬成館
7	スポーツ教室（加盟種目競技）	5月中旬	錬成館
8	定時理事会	5月16日（火）	錬成館
9	定時評議員会	6月3日（土）	錬成館
10	第40回可児シティマラソン	6月11日（日）	ぎふワールド・ローズガーデン～ 可児市内
11	広報広聴委員会	6月中旬	錬成館
12	スポーツ教室（フィットネスフラ）	6月～7月	錬成館
13	スポーツ教室（ピラティス）	6月～7月	錬成館
14	スポーツ教室（背骨コンディショニング）	6月～7月	錬成館
15	可児シティマラソン実行委員会	6月～7月	可児市役所
16	第53回可茂地区体育大会	7月9日（日）	可茂地区
17	指導者講習会	7月～10月	錬成館
18	第15回岐阜県民スポーツ大会	9月17日（日）	中濃地区
19	スポーツ教室（格闘技エクササイズ）	9月～10月	錬成館
20	スポーツ教室（スモールホールエクササイズ）	9月～10月	錬成館
21	スポーツ教室（ヨガ）	9月～10月	錬成館
22	体連かに発行（11月号）	11月1日（水）	
23	第66回可児駅伝競走大会	12月10日（日）	ぎふワールド・ローズガーデン
24	スポーツ教室（ステップエアロ）	11月～12月	錬成館
25	スポーツ教室（太極拳）	11月～12月	錬成館
26	スポーツ教室（ヨガ）	11月～12月	錬成館
27	総務委員会	1月中旬	錬成館
28	岐阜県民スポーツ大会・冬季大会	1月～2月	未定
29	定時理事会	1月下旬	錬成館
30	定時評議員会	2月3日（土）	錬成館
31	スポーツ教室（ヨガ）	2月～3月	錬成館
32	スポーツ教室（フットセラピー）	2月～3月	錬成館

・上記委員会以外の委員会については、必要に応じて随時開催することとします。

令和5年度・令和6年度公益財団法人可児市体育連盟事業計画
スローガン「示せ躍進 広げようふれあい 可児市体連」

【基本方針】

公益財団法人可児市体育連盟は、可児市におけるアマチュアスポーツの統括団体として、加盟団体はもとより、市内におけるスポーツ関係機関・団体との連携のもと、広くスポーツの日常化を推進するとともに競技力の向上に努めます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響は、未だ終息が見えない状況にあり、スポーツ界にも甚大なる影響がでています。文化としてのスポーツは、心身の健康にとって、欠かせないものであることを改めて実感し、「ウィズコロナ」を念頭に、スポーツのある生活を取り戻せるよう尽力してまいります。

当連盟として、引き続き加盟団体と連携し、すべての市民が、体力や目的に応じて、身近で気軽にスポーツを楽しめるよう、より一層のアマチュアスポーツの健全な普及と発展を図り、市民の体力向上と健康増進に努め、「住みごころ一番・可児」を念頭に「みるスポーツ」「するスポーツ」「ささえるスポーツ」の三つを柱として「一市民一スポーツ」の実現に向け公益事業を積極的に推進してまいります。

今後も市民の健康増進に寄与することを大前提におき、「競技スポーツの振興と競技力の向上」「生涯スポーツの普及と振興」に資する下記の諸施策に取り組んでまいります。

また、令和4年制定のスポーツ基本法に基づく、第3期スポーツ基本計画答申の趣旨を参酌し、国や市が整備する計画や施策に一体となって協力してまいります。

【重点】

1. 体制の強化と組織の拡大
2. 財政基盤の確立
3. 競技力の向上
4. 生涯スポーツの普及・振興
5. 青少年のスポーツ活動の活発化
6. 広報広聴活動の充実
7. スポーツ施設の適正管理と有効活用
8. 事務局体制の充実と職員の資質向上

【具体的施策】

1. 体制の強化と組織の拡大

スポーツの振興を積極的に推進するため、当連盟の体制を強化すると共に、加盟団体の組織強化と会員の拡大を図り、団体相互の協力体制の確立を目指す。

(1) 体制の強化

財団組織としての体制を拡充するとともに、理事会並びに評議員会の活動の充実と委員会活動の活性化を図る。また、委員会の再編を検討し、時代の変遷に伴う新たな課題解決に向けた取り組みを推進する。

(2) 競技団体の組織強化・拡大

広報、啓発の機会を積極的に活用し、加盟競技団体の会員の拡大を図るとともに、競技団体の組織体制の強化と競技力の向上を支援する。

(3) 新たな競技団体の育成

未加盟の競技団体を発掘・育成し、加盟への働きかけを行う。

(4) 団体相互の協力体制の支援

加盟団体の情報交流の場を創出し、相互の協力体制の確立、強化を図る。

2. 財政基盤の確立

当連盟の事業をより活発にするために自主財源の確保等に努め、財政基盤を確立する。

(1) 賛助会員制度の啓発活動充実

新型コロナウイルス感染症の影響とそれに続く世界的な景気後退による厳しい経済情勢の下で賛助会員が減少しつつあるため、賛助会員制度を理解してもらうための働きかけや情報提供等を積極的に行う。

(2) 基本財産の適正な管理・運用

基本財産の安全で確実な管理に努めると共に、基本財産取崩に伴う計画的補てんを確実に実施する。また、安全性が高く果実を収穫できる基本財産の運用方法を調査・研究する。

(3) 委託事業の受託

指定管理などの委託事業の受託により、人件費などの共用化を図ることで、より安定した組織経営を目指す。

3. 競技力の向上

岐阜県民スポーツ大会での順位目標を総合第3位とする。また、競技力向上のため、優秀選手の発掘や優秀指導者の育成に努める。

(1) 優秀選手等の発掘

総合体育大会への参加を広く呼びかけることや、学校、地域または職場等との連携を図ることにより、優秀選手やチームの発掘、育成に努める。

(2) 優秀指導者の育成

現代のスポーツ指導者に求められる知識と能力を高めるため、スポーツ科学に着目した講習会等を開催し、指導者の資質向上に努めるとともに、指導者同士の交流の場を提供する。

4. 生涯スポーツの普及・振興

市民の体力向上と健康増進を図り、スポーツ愛好者を更に拡大するため、次の事業を実施する。

(1) 総合体育大会の開催

競技団体が主体となり、市民への普及と競技団体のPRを兼ね備えた企画・運営を図る。地区住民のスポーツに対する関心と実践の機運を醸成し、スポーツをする機会を提供する。

(2) 可児シティマラソン大会・可児駅伝競走大会への市民参加

冬季の市民スポーツ参加を促すため、全加盟団体の協力を結集して実施する。マラソンにおいてはハーフマラソンの部の新規開催を実現する。

(3) スポーツ教室の充実

各種スポーツ教室の企画に当たっては、参加者のニーズをアンケートにより調査し、効果的なものとなるよう内容の充実・改善に努める。

(4) スポーツを通じた共生社会の実現

障がいおよび国籍や性別に関わらず、スポーツを通して自己実現できる、共生社会の実現を目指し、その環境創出に寄与する。

5. 青少年のスポーツ活動の活発化

スポーツ少年団本部や学校・地域スポーツクラブと連携し、青少年のスポーツ活動の環境整備に努める。

(1) スポーツ少年団の単位団の育成

スポーツ少年団本部と各学校区（育成会）等との連携を強化し、団員の確保に努める。

(2) 可児UNIC（ユニック）スポーツクラブとの連携強化

本連盟、加盟団体およびスポーツ少年団は、可児UNICスポーツクラブの活動を支援し、生涯スポーツの推進を図る。

(3) 各競技種目のジュニア選手育成

本連盟、加盟競技団体は、後世に国際大会や国民体育大会などに出場する優秀な選手の発掘と育成、またジュニア競技者の裾野を広げるための教室開催などジュニア部門の強化に努める。

(4) 中学生のスポーツ環境整備

部活動の地域連携・地域移行に伴い、より多くのニーズに対応した活動ができるよう、学校やスポーツ少年団、可児UNICスポーツクラブとの連携を図り、実施環境の構築に努める。

6. 広報広聴活動の充実

広報広聴活動を充実させることで、本連盟の活動内容を市民に理解してもらう。また、スポーツに関する情報提供を積極的に行う。

(1) 広報活動の充実

広報誌「体連かに」を定期的に発行すると共に内容充実に努める。

連盟ホームページの充実とSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を利用した情報発信により、リアルタイムな情報を提供する。

可児市、ケーブルテレビ、新聞社等の関係機関との連携を強化し、広報活動を充実させる。

(2) スポーツ情報の収集と提供

関係機関や各競技団体との連携によりスポーツ情報の収集に努めるとともに、各種スポーツ活動の状況や市内のスポーツ施設等の情報を提供する。

7. スポーツ施設の適正管理と有効活用

可児青少年育成センター“錬成館”の適正管理に努めるとともに、指定管理者として可児市体育施設の効率的な運営を推進する。

(1) 可児青少年育成センター“錬成館”の適正管理

施設の予防保全に努め、安全で快適な環境を提供できるよう心掛ける。

また、施設の改修計画を作成し、必要な経費の確保に努める。

(2) 指定管理事業

①職員同士の情報共有と連携を軸に、組織体制の充実に努める。また、スポーツ施設が市民にとって安全で有効な活動場所となるよう努め、「みる・する・ささえる」スポーツの推進を目指す。

②アンケート等の実施により、利用者の声やニーズを集約することで、施設の環境整備や各種イベントの企画など、より快適で利用しやすい施設運営に努める。

8. 事務局体制の充実と職員の資質向上

職員一人ひとりが高い目標意識を持ちつつ、連盟の一員として本事業計画に沿った事業の企画・改善など、時流に対応し得る人材の育成に努める。

(1) 職員体制の充実と外部機関との連携強化

内部会議により、職員間の意思疎通、協力体制の充実に努める。

また、マラソンでのハーフ部門新設に向けた最終準備を進めるとともに、学校、可児UNICスポーツクラブとの連携強化を推進する体制づくりに取り組む。

(2) 職員の資質向上

有効な知識や資格を得るため、積極的に講習会等に参加し、職員のスキルを高めるとともに資質の向上に努める。